

VI DVを見聞きした経験とそのときの対応

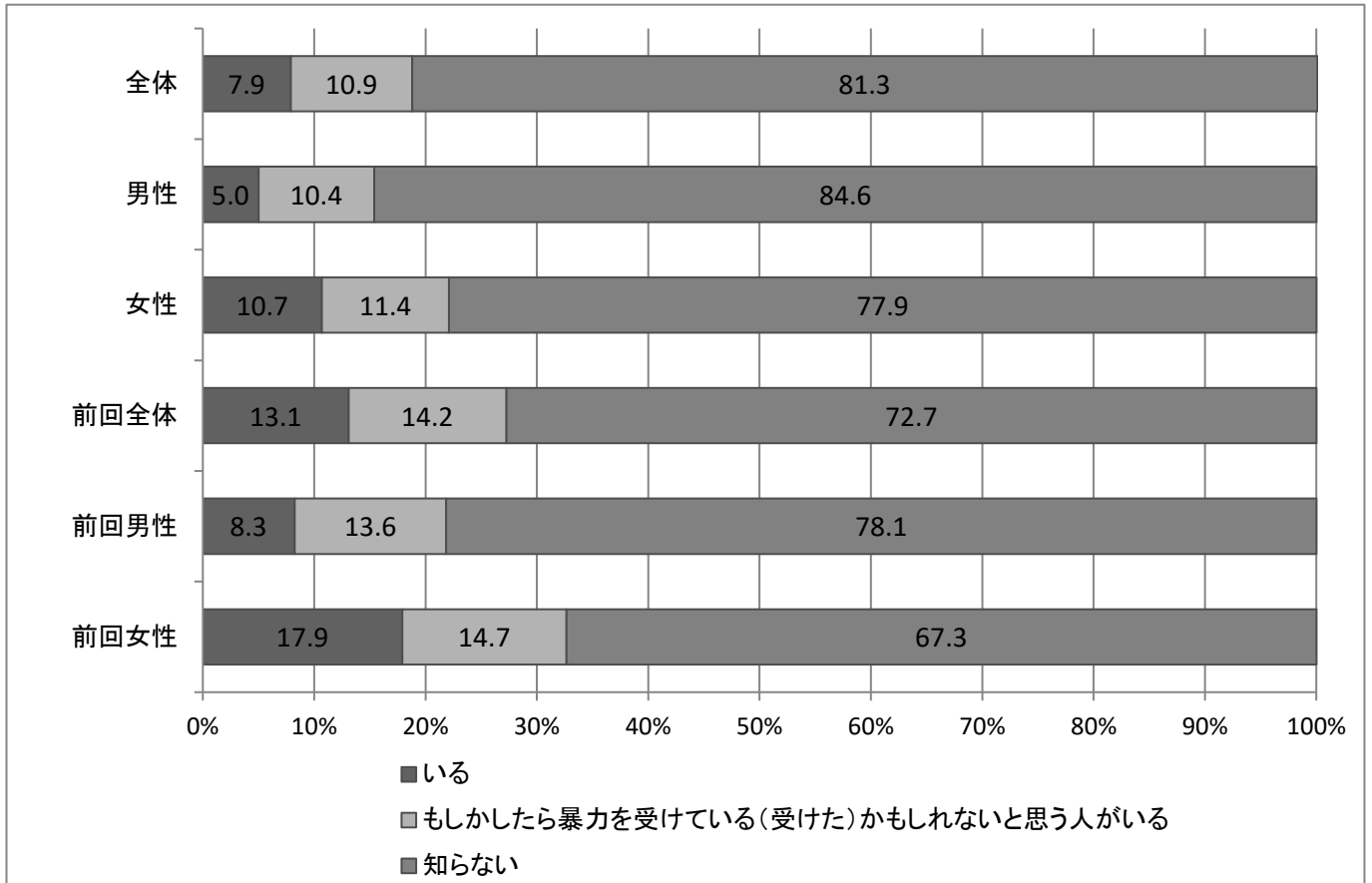
【DVの被害者がまわりにいるか、被害者との関係、暴力の種類】

DVやデートDVの被害者が周囲にいると回答したのは7.9%（男性5.0%、女性10.7%）、それにDV被害者の可能性がある人がある場合を加えると18.8%（男性15.4%、女性22.1%）となっている。

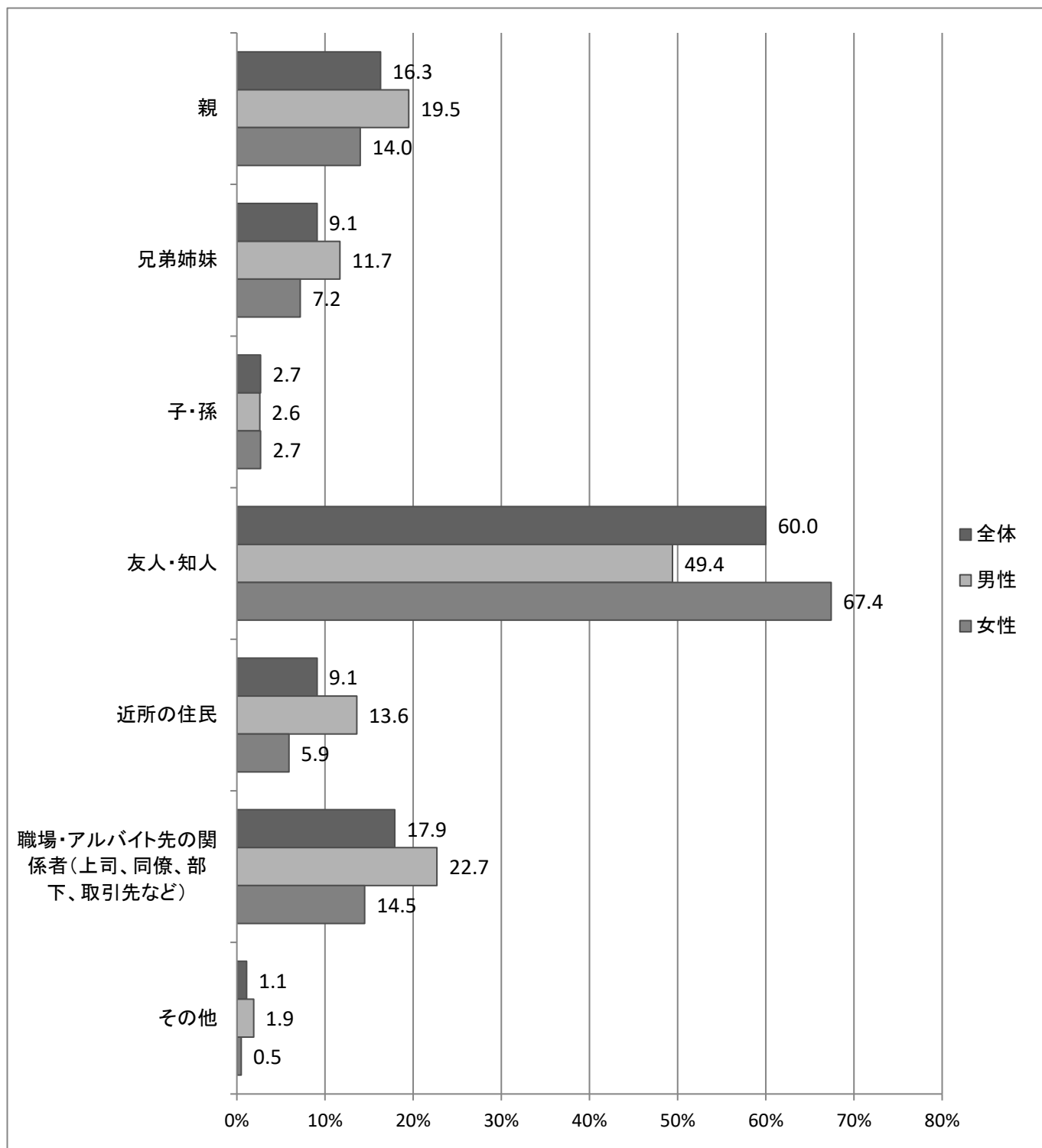
前回調査と比較すると、被害者が周囲にいると回答したのは5.2ポイント、それにDV被害者の可能性がある人がある場合を加えると8.5ポイント減少している。

被害者との関係（間柄）は、「友人・知人」60.0%で飛び抜けて多く、次いで「職場・アルバイト先の関係者（上司、同僚、部下、取引先など）」17.9%、「親」16.3%となっている。

（問）配偶者や交際相手から暴力を受けている（受けた経験のある）人があなたの周囲にいますか。



(問) 配偶者や交際相手から暴力を受けている(受けた経験のある)人は、あなたから見てどのような間柄の人ですか。(いくつでも)



【DVに気づいたときにどうしたか】

DVに気づいたときの対応は、「どう対応したらいいか分からず、何もしなかった」34.1%、「他人のことなので口出しすべきことではないと思い、何もしなかった」19.2%、「暴力かどうか判断がつかず、何もしなかった」16.0%の順に高い。また、いずれかの理由で何もしなかったのは61.6%となっている。

男女別に見ると、「どう対応したらいいか分からず、何もしなかった」は、女性の方が5ポイント以上高く、「トラブルに巻き込まれたくなかったので、何もしなかった」は男性の方が10ポイント以上高くなっている。

(問) 暴力を受けている(かもしれない)ことを知って、あなたはどうしましたか。(いくつでも)

